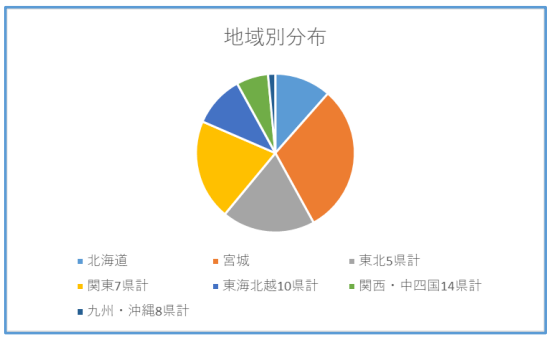
同窓生のタスキ（リレー・メッセージ集）・第２集発行に寄せて

仙　台　大　学
理事長　朴澤泰治

今回の第２集発行に際し、佐藤一拡同窓会事務局長から、第１号から第２００号までのメッセージの「目次」を見せて頂きました。メッセージを寄せて頂いた同窓生の卒業期と現住地の状況は、次の通りでした。

○　現住地の状況

・大学の地元宮城県在住の方は６１名。最も多いのは当然ですが、逆に宮城県以外の方が１３９名も一文を寄せて頂いており、仙台大学卒業生の拡がりを改めて確認できます。地域別分布は下表のとおりで、関東７都府県計が２０．５%、宮城県を除く東北５県計が１９%、北海道が１１．５%、東海北越１０県計が１０．5%等となっております。県別では、多いところで北海道が２３名、福島１４名、新潟・埼玉１２名等となっております。一方、４７都道府県のうちでは、山梨・静岡・石川・滋賀・奈良・和歌山・山口・四国４県・福岡・大分・宮崎・鹿児島・沖縄の１６県在住の方は、まだメッセージを寄せておられません。沖縄その他、同窓生の在住がハッキリしている地域からの寄稿が期待されるところであります。



○　卒業期の状況

・現住地の分布からも窺われますが、仙台大学が北海道・新潟地域もカバーしていた時代の卒業期の方が多くを占めておられます。特筆すべきは、「還暦同窓会」を実施された第８期（昭和５３年３月卒）から第１５期（昭和６０年３月卒）の間の同窓生が１３３名もメッセージを寄せられていることです。その後、コロナ過により中断されて現在に至っておられますが、この企画が輪の拡がりをもたらしていることは明確です。第１期生も９名寄稿されておられます。昭和４６年卒業生の２割弱に達する同窓生がタスキをつないでおられることになります。この比率は全国の各大学の同窓会では見られない大きさと考えられ、母校愛を継続頂いていること、大変、有難く思う次第であります。

時代別には、昭和の時代が１８６名、平成の時代が１４名となっており、同窓生の時代別卒業比率との対比では、平成時代に卒業された同窓生の輪の拡大が、一層、望まれるところとなっております。第３８期（平成２０年３月卒）から第４２期（平成２３年３月卒）の方々、計４名が、最も若い層を代表しておられます。うち３名の同窓生は、弊職が学長兼務の時の卒業生です。今後を期待したいと思います。

第１集の挨拶でも申し述べましたが、これからが、いよいよ仙台大学存続の正念場です。リレー・メッセージ集を通じ、全国各地からの同窓生のご支援・ご助言の声を拝聴致したく、宜しく、お願い致します。